

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800444
法人名	株式会社 フレンド
事業所名	グループホーム フレンド香住ヶ丘 (ユニット名 つき・ひだまり )
所在地	福岡市東区香住ヶ丘2丁目3-23
自己評価作成日	令和1年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	令和2年1月10日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の若返りを図り、レクリエーション(歌、ぬりえ、手作り料理)を充実させ、ご家族様がいつお越しになっても、入居して良かったと思ってもらえるような施設。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物の1階は小規模多機能型居宅介護事業所で、2・3階が当事業である。管理者は同法人のグループホームから転勤で昨年7月(令和1年)より勤務している。グループホームのあるべき姿に向けて、熱い思いをもって、入れ替わった職員への教育に力を入れているところである。利用者にも目を向け、利用者主体のケアに職員みんなで取り組んでおり、利用者や職員の笑顔が増え、家族から明るくなったとの好評価に変わってきている。事業所が設置されてまだ2年半であること、現管理者が半年前に勤務始めたことから、地域との交流に課題がある。管理者はこの課題を認識しており、地域との交流への取り組みに意欲を持っている。今後は楽しみであり、期待できる事業所である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着としての機能がまだまだ果たせていないが、包括、社協との連携を密にし、ネットワーク作りに力を入れている。	設立時の理念が共有スペースに掲示されている。入職時研修に話をしており、職員は概ね理解してケアにあたっている。管理者を含め職員の殆どが入替わっていること、理念の文言が長く職員間で共有しづらいことから、管理者は見直しを考えている。	理念の見直しをする際、全職員の参画が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	上記と同様でまだまだ交流とまではいっていない。香住ヶ丘さくらネットを通しての交流を図り、12月12日の会合に出席予定。	職員の大半の交代があったこと、かつて外出中に利用者の転倒があったこと等から、外出や地域との交流が進んでいない。気候の良い時に、月1回ほど散歩し地域の人と挨拶をする程度である。	事業所所在地の地域の情報を得たり、積極的に町内会長との連携により事業所の存在や利用者のことを理解してもらい働きかけをして交流が日常的になることが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括及び民生委員の協力を得ながら、グループホームの特色を伝えていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や話し合いは積み重ねており、包括との関係は良好で、ご家族様にも来て頂き、多様な意見をサービスに反映させている。	2ヶ月に1回、地域包括支援センター、民生委員、家族、利用者、防災センター等の参加を得て開催している。入居状況、活動状況、研修報告、事故報告、救急救命講習等行っている。地域包括支援センターから研修開催のアドバイスを受けたり、民生委員からの相談事などに対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の介護保険課への提出するものがあるれば、直接出向き、そのたび意見を頂戴するようにしている。	介護保険に関する事、その他の提出書類や手順に関する事などをたずねたりしている。市からはいつでも電話してくださいと言われてもらえるなど良好な関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	特に新人職員にはどういったものが拘束になるかを事例をあげ、理解してもらい、いつでも質問できる環境を作っている。	年間研修計画に身体拘束に関する研修を入れている。各研修に担当者を決めており、担当職員は話することで学びがより深まっている。特にスピーチロック(言葉による拘束)に留意しており、相応しくない場面を見つけた場合は、すぐに個別研修をすることになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記と同様に新人職員には時間を割き、虐待とはを研修している。既存の職員にもその都度質問し、理解できているかを確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人を付けている利用者がいらっしやるので、その先生に質問し理解を深め、職員へも伝え始めているところである。	成年後見制度の研修開催予定がある。現在、1名の方が昨年後半から法定後見人がついたので、職員は制度を概ね理解し始めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にも疑問点、不安なところを確認し、見学にお越しになった時にも、質問には誠実にこたえ、ご家族様の不安をなくす努力をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とお会いしたとき、電話をする機会があるときには、お時間を頂き、意見を頂戴している。	管理者に対して家族が言いやすい雰囲気がある。家族の不満・苦情を真摯に聞き入れ、職員皆で取り組み、対応したことで家族の評価が変わりつつある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員とは一対一で話せる機会を設け、その時々々の意見等を聞き、より良い運営を築いている。	毎月の職員会議において職員が発言しやすく、困りごとへの対応についてなど、自由に意見を言える雰囲気がある。職員と個別に話せる機会を設けており、管理者になんでも相談できる関係性もできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	市からの研修案内が届くので、職員に伝え、それぞれのスキルアップに役立ててもらっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用についても、無資格者未経験者問わず、やる気のある応募者を採用するよう心掛けている。	現在、20歳代から60歳代の男性、女性の職員が勤務している。利用者との関わりを日々のプログラムにのせることなく、利用者一人ひとりに目を向け自由な関わりができることで、よりやりがいを感じて生き活きとして働いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全職員へ人権教育という名目での研修は、現在のところできていないが、入職時に虐待等の話をし交えながら人権とはを伝えている。	年間研修計画に人権教育を入れている。事業所として未実施ではあるが、まず管理者が講師として研修を行い、次回からは人権研修担当職員にしてもらう予定である。その他、入職時や日々の業務の中で気になった時は個別に話すようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	12と同様にそれぞれの足りない部分、身に着けてほしいと思う研修への案内をしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括と社協の協力のもと、さくらネットを充実させていくことで、職員が同業者との繋がりができるよう取り組んでいるところである。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なこと、要望は聞くようにし、ご家族様とも意見交換しより良いケアを目指している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時点からご家族の思いを聞き、入居前のご本人面談に伺う際に、ご家族様にも立ち会ってもらい、いろんな意見を伺うようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小規模多機能型居宅介護も併設しているので、そのサービスを伝えたり、現状に合うと思われるサービスも伝えている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはしてもらうようにしている。「手伝えることがあれば言って下さい」と言われる入居者様もいる。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にも時間があれば、散歩へ一緒に行ってもらえるよう声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内については、今まで住まわれていた環境を維持してもらいたいのので、馴染みのあるもの等を持ってきて欲しいとお願いしている。。	家族やご近所だった人の訪問時は歓迎し、居室やリビングで歓談してもらっている。利用者が馴染みの場所や人を訪問する時は、家族に協力をお願いして自宅に帰ったり、散歩や近くの大学・公園へ連れて行ってもらっており、親しい人との関係が継続できるよう支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように一所に集まってもらう時間を増やすようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去前には今後の話も含めて話をし、不安なこと等の相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の今したいこと、その方の満足度を少しでも上げられるよう日々努力している。	日頃の生活の中で、本人との会話や家族からの要望、意向を聞き取り、本人の望む暮らしへ近づくことができるように、職員間で共有している。思いを伝えることができない方は表情や顔色で思いをくみ取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員都合のケアをしないように気を付けている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理強いをしない、できるときにしてもらう心がけている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人が意見を言える方はその方の思いを尊重し、伝えることのできない方へはご家族様、その方の表情からより良いものが提供できるようにしている。	介護計画作成の際には担当者会議を開催し、本人、家族への意向を確認している。家族が参加できない場合は、介護計画書を送付する前に電話にて必ず内容を伝え同意を得ている。見直す際には再度アセスメント、モニタリングを行い目標について職員間で情報共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを増やしてもらえるようにヒヤリハットを記入してもらい、ケアの工夫を促している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化にすぐに対応し、今必要なものをできるだけ早い段階で導入し支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	さくらネットを利用し、香住ヶ丘・香椎地域で他の事業所と連携を取っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は決まっているが、ご家族様の要望により別のかかりつけ医に診て頂いている入居者様もいる。	利用者のほとんどが協力医の往診を受けているが、入居時に要望を確認し対応している。他科受診については家族にお願いしているが、家族が同行できない利用者に対しては職員が対応することもあり、結果を家族に報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が来た時には確認して欲しい事柄を伝え、主治医に繋いでもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院カンファを含め、入院中にもご家族様に今の状態を聞き、MSWとの連携を密にしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人と家族様、医療関係者を交え、話し合いをし出来ることを説明、確認し、方針を決めてチームケアを実施している。	入居時に重度化や終末期の意向を確認している。看取りを希望される方には事業所ですることについての説明を行い、理解を得ている。過去に看取り計画を立て実施したケースもあり、今後もケースに応じて対応していく予定である。職員間でも方針については随時共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習に数名ずつではあるが毎月受講してもらっている。初期対応についてもマニュアルを掲示している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の研修を受け、地域との連携が薄かったが、さくらネットを利用し始めたので、協力体制が整いつつある。	年2回の避難訓練を実施している。消防署の指導も受け、通報訓練や夜間想定訓練も実施している。全職員が通報システムの使い方などを確認している。備蓄も確保し災害時に備えている。地域との連携については、今後協力体制を整えるために準備を進めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重、誇りを損ねないように名前は苗字にさん付けでお呼びし、敬う気持ちを忘れない言葉かけをしている。	排泄介助の際には特にプライバシーに配慮している。大きな声にならないよう、さりげなく誘導するなどの配慮が職員間で認識できている。着替えの際には戸を開け放しにしないなど、常に配慮して対応している。個人情報等の書類は職員室の戸棚に保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーション、お手伝いなど、強要せず、自己決定できるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先の職場環境であったが、改善していった結果、利用者様、ご家族様から感謝のお言葉を頂けるまでになった。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えを入居者様と共に選んでいる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は可能な所を見つけ手伝ってもらい、職員と共に片付けまでしてもらっている。	事業所内では調理を行っていないため、利用者が調理をする機会はないが、盛り付けや食器拭きなど可能なことは職員と一緒にしている。時々調理レクリエーションとして、昼食を利用者と一緒に調理して、楽しむ機会を積極的に作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は時間を決め、飲んでもらう量を決めているが、無理強いせず、その方の調子に合わせたタイミングで摂取してもらっている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをして頂いている。磨き残しのケアが拒否のためできない方については、訪問歯科様に協力してもらっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットを利用している方は多いが、全員トイレ誘導しトイレ内で排泄をしてもらっている。	職員は、排泄チェック表により利用者の排泄パターンや、一人ひとりの排泄前のしぐさを把握している。誘導の時間を定期的決めず、個々に応じた排泄のタイミングで誘導し自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保をし、ヨーグルトなどの食べ物で対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日ごとに決めてはいるが、気分や体調に合わせ臨機応変にしている。	少なくとも週に二回は入浴ができるように予定を立てている。曜日や時間は決めず、一人ひとりに応じた曜日、時間帯を決めている。汗をかきやすい人、失禁をした場合など、その方の状況に応じて入浴ができるように個々に対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間、起床時間はその方のリズムに合わせている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は読むようにしてもらい、薬変更があった場合は、薬剤師に聞き、全職員に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様に過去していたことを尋ね、こちらで用意できるものは用意し気分転換をして頂いてる。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者全員の外出支援は現在できていないが、暖かくなれば、歩行の難しい方は車椅子を利用し、外の空気に触れてもらう。	少しでも外気に触れることができるようにと考えているが、過去に転倒があったことから、寒い時期は外出を控えている。気候が良くなれば全員で出かけることができるように計画を立てる予定である。	外気に触れることは、季節や時間の流れを感じる等の五感への刺激となることから、個々に応じた外出支援のあり方について、検討する機会を持つことを期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	51.と同様に暖かくなれば、ご家族様に説明し、一緒に買い物に出かける支援を行っていきたい。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠く離れているご家族様からの電話は入居者様に繋げるようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアのカレンダーは入居者様の手作りでお願いしている。	共用の空間は利用者に合わせて適温を保っている。不快な音や臭いもなく利用者が過ごしやすい空間となっている。利用者が制作したちぎり絵などの展示物を壁に掲示し、カレンダーも毎月利用者と一緒に制作している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファがあるのでそこに座り、話しながらテレビを見られている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご家族様の写真やお仏壇など、ホッとできるようにしている。	利用者が使い慣れている物や、仏様・思い入れのある物などを部屋に持ち込んでいる。冷蔵庫やテレビなどを持ち込むこともできる。家族の写真や壁に飾るなど、各人に合わせ落ち着いた居室空間となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒リスクのある方など居室から直線上にトイレがあるなど、無理のない生活環境作りをしている。		